三重の吊り橋を訪ねて

吊り橋は川の上に道をつくり
土地と土地を結んできました。
吊り橋と一言でいっても
小さな谷を渡し、人ひとりが通れるだけの吊り橋もあれば、
大きな川に架け、車が通れるほど頑丈な吊り橋まで
さまざまに存在します。
吊り橋と聞くと、ワクワクするのはなぜでしょう。
空中散歩のような浮遊感
日常で味わえないドキドキ感
そして、川の上から広がる眺めや
足元の吸い込まれるような景色。
吊り橋で味わう体感には
人々を惹きつける魅力があります。
今回は、三重県各地にある吊り橋を紹介します。

※三重県内には、他にも吊り橋は存在します。ここで紹介したものは、一部になります。

●取材・文／椋木 敬子　●写真・編集／平田 晃・高野 寿司

伊賀市「しあん橋」

宇賀渓の景観に溶け込む青い吊り橋

北河内吊り橋（きたかわうちつりばし）　いなべ市大安町

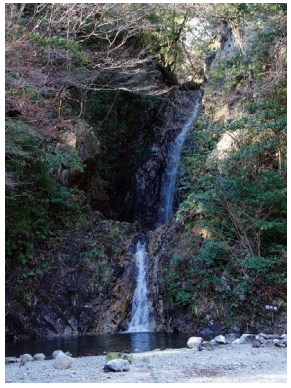
国道421号線を滋賀県方面へ向かうと、県境近くに宇賀渓（うがけい）があります。鈴鹿国定公園の中にあり、登山や紅葉（もみじ）狩り、キャンプなど四季をとおして自然を満喫できる渓谷です。

目的の「北河内吊り橋」は、宇賀渓観光案内所から右方向の遊歩道を約250メートル歩いたところにありました。青く塗られた橋は、幅が約1．5メートルの人ひとりが通れるほどの小さな橋。遊歩道から対岸の北河内キャンプ場へ渡るために架けられたもので、床版（しょうばん）（橋でいう床のこと）が木板でつくられています。キャンプに訪れた子どもたちが、喜んで渡る様子が目に浮かびます。

この橋の上から下流を見ると、砂防ダムがすぐ足元にあり、水が勢いよく落ちる様子と響きに驚かされます。一方上流を見ると、広場のように開けた河原があり、その向こうに糸のように流れ落ちる「御所滝」が見えます。

橋を渡り、キャンプができる河原へ下りてみましょう。橋の全景は、ここからはっきりと見ることができます。山がせまる渓谷の風景に溶け込みながら、その存在感を示す小さな青い橋。

キャンプ場周辺は気軽に歩けるエリアなので、橋をポイントに自然散策が楽しめます。



滝壺まで近づける
落差13メートルの御所滝



河原に下りて全景を見る橋長30メートルの北河内吊り橋

お問い合わせ
宇賀渓観光協会案内所
●4月～10月（午前8～午後5時まで）●11月～3月（午前8～午後3時まで）
TEL 0594・78・3737

関富士の山裾に佇む、池に架かる吊り橋

聖橋（ひじりばし）　亀山市関町

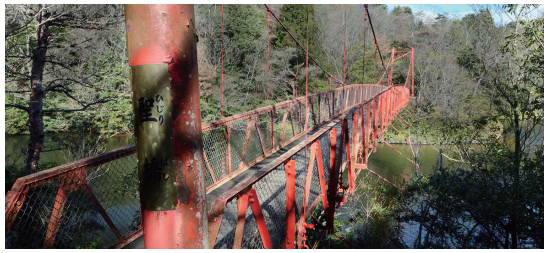
JR関駅から国道1号線を少し西へ行くと、観音山公園があります。鈴鹿国定公園内に位置し、季節の花や樹木などの自然を楽しめる山の公園です。ここに「聖橋」があります。



関ロッジからの眺め。関富士と桜※

この橋へは、公園内のゲストホテル・「関ロッジ」が目標です。建物の裏手に新池と呼ばれる大きな池があり、そこに橋が架けられています。

駐車場に車を停めて、ロッジ横から遊歩道へ入りましょう。遊歩道は、新池をぐるっと周るようにのびており、その途中に池を横切る赤い吊り橋があります。橋長は43メートル。水面からの高さは5メートルほどなので、橋を渡ると池を近くに感じられるほど。流れのない池には、川とは違った静けさが漂っています。



池周辺の遊歩道を結ぶ聖橋

この橋の全景は、遊歩道を周りながら見ることができますが、「関ロッジ」のロビーからの眺めもおすすめです。正面の大きな窓の向こうに、きれいな形をした山が見えます。地元の人からは「関富士」と呼ばれるほどで、新池との境目あたりに橋もよく見えます。4月中旬からは、あたりに桜の花が咲き、秋には関富士が紅葉で彩られ、聖橋と重なり合って趣ある景観に。季節ごとの情景が楽しみです。

お問い合わせ
亀山市 用地管理課 管理G
TEL 0595・84・5102

※印の写真は取材先から提供していただきました。

自然美にあふれた岩倉峡公園。敷地内を結ぶ大きな吊り橋

しあん橋（しあんはし）

伊賀市

伊賀市の北西部に位置する、木津川の渓谷・岩倉峡（いわくらきょう）。四季折々の美しさや、巨岩、瀬、淵など変化に富んだ渓流の景観が楽しめる自然公園として整備されています。目的の「しあん橋」はこの公園内にあります。

岩倉峡公園へは、国道25号線（名阪国道）の大内インターから北へ向かい、案内板に従って車を走らせます。この橋へは、管理棟がある第5駐車場が近くて便利です。川の方向を見ると、大きな吊り橋が見えました。道標にそって階段を上っていくと、橋のたもとに到着します。

この橋は公園のシンボルとして、そして木津川をはさんで広がる岩倉峡公園内の道として、公園整備とほぼ同じ時期に架けられました。橋長118メートルもあり、対岸へまっすぐ伸びる様子は爽快感があります。木津川の水面からは約36メートル。橋の上から下をのぞくと、少し足がすくむ思いがします。まわりは視界が開けているので、天気が良い日は空の青さが目にとびこんできます。まるで空中散歩をしているような気持ち良さを体感できるでしょう。

この大きな橋は、いろいろな角度からその姿を見ることができます。橋を渡り、石畳の階段を上ると、木々に囲まれた遊具の広場に到着。ここは見晴らしがよく、橋を斜め上から眼下に望むことができます。四季折々の山の色をバックに、シルバーの吊り橋が浮き出るような、勇壮な風景に出合えるでしょう。

河原まで下りて見上げれば、その高さと橋長の長さにあらためて圧倒されます。また、橋の近くに整備された川辺の散歩道を歩けば、せせらぎを耳元で聞きながら眺めることができます。


季節ごとの風景が楽しめる※


河原から見上げる吊り橋の絶景


空中散歩のような感覚で対岸へ

岩倉峡公園は、季節ごとの景観が美しい公園です。3月下旬から4月上旬にかけて、桜があちらこちらで花を咲かせます。緑とピンクのコントラストが園内を彩り、多くの人が花見に訪れます。5月になれば藤の花。そして秋にはモミジが赤く色づきます。なかでも川辺の散歩道の紅葉は、地元でも評判の美しさです。山裾のモミジが川に向かって散歩道を覆（おお）い、紅葉の合間から見る川や橋の風景は、ほかの季節にはない趣があります。また、橋の上から見下ろす紅葉もおすすめです。

シンプルにデザインされたしあん橋は、まわりの景観を引き立たせるかのように存在しています。


橋の上から望む木津川

お問い合わせ

伊賀市建設部都市計画課 公園景観管理係

TEL0595・22・9731

※印の写真は取材先から提供していただきました。

桜の景観が美しい三重と奈良を結ぶ吊り橋

大川橋（おおこばし）

伊賀市予野～奈良県山辺郡山添村

古くから川は、土地の境界線の役割を果たしてきました。そのため県をまたぐ吊り橋もいくつか存在します。吊り橋巡りは、時には隣の県まで足を運ぶこともあり、それも楽しみのひとつです。

目的の「大川橋」も、県同士を結ぶ吊り橋です。奈良県側にあるキャンプ場・「カントリーパーク大川」が目標です。

国道25号線（名阪国道）の治田インターを下りて北へ少し行き、国道25号線と五月橋を経由し、川沿いの山道を走ります。左手に「カントリーパーク大川」への道標がありますが、通り越して進んでいくと大川橋がありました。

この橋は、三重県伊賀市と奈良県山辺郡山添村の県境を流れる名張川に架かっています。床版が鉄板で造られており、安心して渡る事ができます。

三重県側の山の向こうには工業団地があり、また釣り人も多く訪れる場所です。



川幅が広く、橋長が114メートル

このあたりは桜がきれいな場所として知られており、3月下旬になると名張川の両岸がピンク色に染まります。

橋を渡りながら、上から桜の花を両側に望む、この橋ならではの桜観賞を満喫できるでしょう。

緑が美しい季節も、川とのコントラストを楽しめます。



大川橋周辺の「カントリーパーク大川」の桜※

お問い合わせ

山添村役場 地域振興課
TEL 0743・85・0048

三重と和歌山をつなぐ秘境の吊り橋

上瀞橋（かみどろばし）

熊野市神川町～和歌山県東牟婁郡北山村

三重県熊野市神川町と和歌山県東牟婁郡北山村にまたがる一帯に、秘境といわれる奥瀞（おくとろ）渓谷があります。その少し下流には、山に囲まれた上瀞（かみどろ）と呼ばれるエリアがあり、渓流沿いに集落が点在しています。この山深い地にある吊り橋が「上瀞橋」です。

橋へは、三重県に隣接する和歌山県東牟婁郡北山村の「道の駅おくとろ」が目標です。

熊野灘沿いの国道42号線から、山へ向かう県道34号線に入り、しばらく車を走らせると、七色ダムへの案内標識が見えます。案内に従い、七色ダムの上の道を通り国道169号線に。そのまま進むと、「道の駅おくとろ」に着きます。橋は、その少し手前のキャンプ場近くにありました。

橋が架かる北山川は、ダムが近いからか流れがなく、人工湖のようです。水の音さえも聞こえない静寂と、深い緑色をした川の色。橋の上に立って景色を眺めていると、山の雄大な自然に抱かれているようです。



三重県側からの眺め



吊り橋の上から眺めるダム湖の景観

橋を渡ると、対岸は三重県熊野市です。少し先には山あいの集落があり、上瀞橋はそこで暮らす人たちにとって大切な生活道。人の生活をつないでいく、橋の役割を果たしています。

お問い合わせ

熊野市 建設課 維持第一係
TEL 0597・89・4111

※印の写真は取材先から提供していただきました。

茶畑が広がる里と山を結ぶ赤い吊り橋

茶倉橋（ちゃくらはし）

――松阪市飯南町

茶畑が広がる松阪市飯南町に、赤い大きな吊り橋が架かっています。観光客にも人気のある「茶倉橋」を訪ねます。

橋への目標は「道の駅茶倉駅」。伊勢自動車道・松阪インターから、国道166号線に入り西へ車で走り続けると、国道沿いの小高い丘の上に、道の駅がありました。ここから橋は見えず、行き方が案内されています。駐車場からのびる92段の階段を上ると、展望台に着きました。

桜の木が何本も植えられた広場を先へ進むと視界が開けます。防霜ファンがまわる茶畑や櫛田川、町を囲む山々が眼下に広がる爽快な景色。そのなかに赤く塗られた茶倉橋を見つけました。ここからかなり下にあるようです。今度は195段の階段を下りながら橋へと近づきます。

階段の途中から、赤い鉄製の手摺りが現れます。川を渡る出発点まではまだ少し距離がありそうですが、どうやらここから茶倉橋のようです。橋は断崖絶壁の途中から架けられているので、崖に沿って螺旋階段をぐるぐると周りながら下りていきます。階段から見る全景の茶倉橋が、この吊り橋ならではの見どころポイントです。ほぼ真上から橋を眺めることができるからです。床版まで赤く塗られた赤一色の橋の景観や、橋を支える主塔の真上を、間近で見ることができます。迫力満点の展望に、目が釘付けになるほどです。

茶倉橋は橋長91メートル、水面からの高さは23メートルありますが、景色が開けているからでしょうか、実際に橋の上を歩くとそれ以上の高さを感じます。橋からは、櫛田川の澄み切った水の色、山の緑、そして5月になるとみずみずしい若草色になる茶畑を見渡すことができます。

対岸は、キャンプ場やバーベキューハウスがある「リバーサイド茶倉」です。芝生広場にはソメイヨシノが並び、4月上旬が見ごろです。季節ごとに赤い吊り橋との競演を満喫できるのもここの魅力です。

「リバーサイド茶倉」でひと休みしたら、再び橋を渡って道の駅へ。断崖絶壁が目の前に迫る様子を楽しみながら、ゆっくりと戻りましょう。



断崖絶壁に沿って設けられた螺旋階段



道の駅茶倉駅の展望台からの眺め※



空中に長く伸びる茶倉橋

※印の写真は取材先から提供していただきました。

お問い合わせ
リバーサイド茶倉
TEL0598・32・3223

渓谷に架かる吊り橋で、エメラルドグリーンの川の色を堪能

魚飛吊橋（うおとびつりばし）——北牟婁郡紀北町


奇岩や巨岩が転がっている魚飛渓にかかる魚飛吊橋

「魚飛吊橋」へは、紀勢自動車道・海山（みやま）インターを降り、国道42号線を通り、県道760号線を銚子川沿いに西へ進みます。対岸の「キャンプイン海山」あたりを通り過ぎ山の中へ入り、渓谷沿いに車を走らせます。しばらく行くと、シルバーに輝く吊り橋が、木々の合間から見えました。道路沿いに一部駐車可能なスペースがあるので、車を停めて散策しましょう。

橋は、銚子川の上流で分かれた又口川にある「魚飛渓」に架かっています。橋の上から見る川は大変透明度が高く、特に夏になると多くの人が、その美しさを見に訪れます。

銚子川は大台ヶ原を源とし、河口の熊野灘まで一気に流れる急勾配の川です。川のほとんどが山間部を流れており、流域には集落が少ないため川の水が汚れることなく河口まで流れます。また、大台ヶ原は年間降水量が非常に多いため水量が豊富。気象や天候などさまざま要因が重なり、日本有数の透明度を誇る川になっています。どれほど美しい川なのか、橋を渡って見てみましょう。

橋は、県道760号線から対岸の山へ架けられています。橋長は50メートル。床版（しょうばん）はグレーチング（側溝の蓋などで使われる網目状のもの）で造られているので、足元が透けて見えます。橋の上から川をのぞいてみると、その透明度に驚かされます。川の色は、少し深みのあるエメラルドグリーン。川底の石の形がはっきりとわかるほど透き通っています。まるで引き込まれるかのような美しさに、しばし見入ってしまうでしょう。

この渓谷は、アユやアマゴが飛び交うことから魚飛渓と名づけられました。泳ぐ魚が見えるほど、その名にふさわしい透明度を誇っています。

橋の上から望む、魚飛渓の景色も絶景です。魚飛渓の河原には、さまざまな奇岩や巨岩が転がっています。壮大な岩の景観と、重なり合う山の風景、空と川が織り成す渓谷美を堪能できるでしょう。

橋を少し上流に行くと、夏に川遊びの滑り台になるほど大きな一枚岩も見られます。

川のせせらぎと鳥の声だけが響く、魚飛吊橋へ五感のすべてを癒しに訪ねてみてはいかがでしょう。


川のせせらぎと鳥の声だけが響く魚飛吊橋


川の色は少し深みのあるエメラルドグリーンの魚飛渓

お問い合わせ
紀北町役場 農林水産課
TEL0597・46・3116